

念願のチャンピオンナンバー「1」を付けて2026シーズンに挑む 決勝を2位で終え、2年連続シリーズチャンピオンに向けて幸先の良い レースとなった

TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ CupはGR GR86 Cup Car BasicとSUBARU BRZ Cup Car Basicを使ったワンメークレースでプロフェッショナルシリーズとクラブマンシリーズの2シリーズ制で行われております。プロフェッショナルシリーズには、SUPER GTに参戦中の現役トップドライバーも複数人参加する、国内屈指の高いレベルを誇るワンメークレースとなっております。



T×2 CABANA RACING 堤優威 ゼッケン1

堤優威がドライブする、「T×2 CABANA RACING CABANA BS GR86 # 7」は2025年GR86/BRZ Cupプロフェッショナルシリーズでシリーズチャンピオンを獲得することができました。昨シーズンの堤選手は優勝1回、2位3回、3位1回と全7戦中5回の表彰台を獲得して、安定した成績を残し悲願の戴冠が叶うこととなりました。これも多くの皆様のご支援と応援をいただき、力強く背中を押していただけたからこそその結果であり、2026年のシーズンに臨むにあたり、強い責任とふたたびチャンピオンを目指す大きなモチベーションとなっております。今シーズンも昨年の結果がフロックと言われたいようなレースを、皆様にお見せできるよう戦っていく所存です。

練習機会のすくないオートポリスのためチームは4月2日木曜日から走行を開始し、金曜日の走行と合わせてコースとタイヤの理解度を深めることとなる。4月4日の土曜日は10時からのスポーツ走行、14時30分からの占有走行の予定となっていたが、ともに濃霧と雨による悪天候となり、コースコンディション不良のため走行はキャンセルとなって走行データを活かして、翌朝9時からの予選に臨むことになる。

QUALIFY

公式予選【PRO】 2026年4月5日(日)9:00～ 天候：曇り 路面：ドライ

タイム：2.06.196 着順 2番手

予選開始時気温：10℃ 路面温度：13℃

今回のオートポリス戦は予選と決勝が1日で行われるワンデイ決戦。前日までの雨は夜半にはあがり、9時の予選開始の時間にはコースはドライの路面コンディションとなる。ただ気温は思ったより上がり鈍く風はかなり冷たく気温も10～11度、路面温度も低いままで予選開始の時刻となる。予選開始となっても各車は待機を続け、予選時間15分のうち残り時間8分切って最初の1台がコースインするが、それでもまだ各車の様子見は続く。残り5分を切るころに多くの車が



コースイン。1号車、堤選手もコースインすると周囲のピットから、茨城トヨペットやスバルチームと数台の車が数台の車がそれに続く。インラップを終えてアタック開始し、セクター2でセクターベストを出してポールへの期待も高まる。コース上にはアタックを終え、スローダウンした車が数台視界には入ったものの、無難にまとめきりトップと0.096秒差の2位という上々の予選結果となった。後続車のなかには、コース上のアクシデントによるイエローフラッグの影響もあったが、今回の堤選手は黄旗の影響を受けることはなかったのも幸이었다。

RACE

決勝レース【PRO】 2026年4月5日(日)13:30~ 10Laps 天候：晴れ 路面：ドライ

タイム：25.02.893 着順 2番手

開始時気温：18℃ 路面温度：24℃



天候は薄曇り、強い追い風の中、全車がグリッドにつき決勝レースがスタート。

堤選手はポールの菅波選手を牽制する意識が感じられる悪くないスタートだったがその2人を上回る最高のロケットスターを切った蒲生選手がイン側から2人を制して1コーナーでトップに立つ。

堤選手は菅波選手と1、2コーナーを並走してポジションを競い合い、3コーナーで半車身前に

出た堤選手が4コーナーで完全に菅波選手の前に出て2位に浮上。トップの蒲生選手を追撃する体勢で2周目以降に突入。堤選手に対して蒲生選手の方が僅かにペースが上回るものの、その差は大きなものではなくトップと2秒差以内の後方につけながら中盤に入る。後方では激しいポジション争いが起っていたがトップ3は落ちついたレースを展開する。中盤からトラブルでペースが上がらなかった佐々木雅弘選手の車両が6周目にエンジンから出火して停止したところで7周目にセーフティカーがコースイン。オフィシャルの消火活動にも関わらず残り周回中にセーフティカーは解除されずそのままチェッカーとなる。堤選手はチャンピオン獲得の昨年に続きオートポリス開幕戦を2位で終え、幸先の良い開幕戦を終えることができた。



COMMENTS

チームスタッフ&ドライバー コメント

T×2 CABANA RACINGチーム監督

安藤宏



まずは2026年もTGR86/BRZ cupに参戦できることをスポンサー、ファンの皆さまに御礼申し上げます。昨年の最終戦を終え、シーズンオフは車両とタイヤのテストの準備をしておりましたが最終戦で壊れたエンジンを新品に寄せ替えましたが走行距離がたりず車のパフォーマンスに一抹の不安がありました。タイヤの習熟も含めてライバル陣営に対する力関係を図りかねておりましたが予選、決勝ともライバルと互角に戦える姿をみて少し安心しました。堤選手のスローガン「勝って兜の緒を締めろ」ではないですが、今年も実力者がひしめくこのカテゴリーで挑戦者の気持ちを忘れないで戦っていきたくと思います。

ドライバー #1 CABANA BS GR86

堤優威



チャンピオンナンバーを付けて今シーズンが始まりました。この活動を応援して下さる、スポンサーやファンの皆さんにお礼を申し上げます。開幕戦のオートポリスは昨年ポールポジションを獲得しましたのでそのセッティングを活かして挑みました。走り始めからブリヂストン勢の中でもトップ集団で走っていました。土曜日の走行が濃霧によりキャンセルとなってしまい、日曜の朝に行われる予選がどうなるのか不安でした。予選が始まり徐々にコースが乾いていく中で、しっかりタイムを刻み2位を獲得できて良かったです。決勝は良いスタートをしたのですが同じブリヂストンタイヤを履く蒲生選手が、さらに良いスタートをして前に出ていきました。自分はダンロップタイヤを履く菅波選手と接戦となりましたが、うまく前に出ることができました。その後は前を行く蒲生選手を追いながら周回を重ねていき、レース後半でSCが出てそのままチェッカーが振られてフィニッシュとなりました。結果として2位で終わりましたが、今シーズンもチャンピオンを狙うためには良い滑り出しになったと思います。

Rd.1 AUTOPOLIS チーフメカニック

齋藤義史



堤選手の得意な部分を活かせるようなクルマの準備を行いました。木曜日から走行を開始し、ショートランやロングランなどのテストを行い、セットアップの方向性の確認をしていきました。ライバルのダンロップタイヤ勢が速いというのはわかっていたので、予選で2位に行けるとは思っていませんでしたが予選では堤選手がうまく合わせこんでくれたことに感謝しています。決勝ではポールの菅波選手を意識しすぎた結果、3位からスタートした同じブリヂストンタイヤを履いている蒲生選手に、前に行かれてしまいました。それだけブリヂストンタイヤの蹴り出しの良さが分かったと思います。スタートも失敗していませんがスタートの位置取りなどがうまく行けば勝てたレースだったかもしれません。次戦の菅生大会に向けてスタートから逃げて勝てるような準備を行っていきたくと思います。